# 2024年度　授業改善推進プラン（全体計画）

小18　町田市立鶴間小学校

## 学力調査等の状況

【6年全国学力調査】
国語平均正答率・・・本校76%　都69%　全国67.2%（昨年度　本校77%　都69%　全国65.6%）昨年度との比較　本校－1　都　±0　　全国－1.6
算数平均正答率・・・本校67%　都67%　全国62.5%（昨年度　本校69%　都68%　全国63.2%）昨年度との比較　本校−2　都−1　　全国−0.7
国語　話すこと・聞くこと・・・82.8%　書くこと・・・26.2%　読むこと・・・80.9%　言葉の特徴や使い方に関する事項・・・81.2%　情報の扱い方に関する事項・・・67.0%
算数　数と計算・・・72.0%　図形・・・52.9%　変化と関係・・・76.7%　データの活用・・・67.0%

## 見えてきた課題

国語：全体的に正答率は高いが、書くことの領域では、図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫するという項目において、課題があることが分かった。目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして書く経験が少ないことが原因であると考える。日頃の授業において、伝えたいことを明確にして資料を引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して書く練習をする必要がある。
算数：全体的に正答率は高いが、図形の領域には少し課題があることが分かった。三角形・正三角形の意味や性質についての理解が不十分である。特に、高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるようにしていく必要がある。

## 授業をデザインする8つの取組について

| | |
|---|---|
| 見通しをもたせる導入 | めあての提示に加えて、学習活動の流れも提示することで見通しをもたせる。児童にとって身近な資料を提示するなど、発問を工夫して問題解決への意欲を高める。 |
| 価値ある対話の共有 | 意見を交流する活動では、目的に応じて人数や座席などの形態を工夫する。多様な考えを認め、自分はと異なる意見について話し合うことの楽しさを味わわせる。 |
| ICT機器の活用 | 必要に応じてコンピュータ等の情報手段等を適切に用いて情報を得られるようにする。得た情報を分かりやすく発信・伝達をできるようにする。プログラミング的思考を育成する。 |

## 各教科における課題を改善するための指導の重点

| | 年度当初に設定した重点 | 低学年 | 中学年 | 高学年 |
|---|---|---|---|---|
| 国語科 | ○自ら考え、表現しようとする態度を養うために、児童にとって必然性のある学習の場を用意できるようにする。<br>○書くことに対する抵抗感をなくし、すすんで書こうとする意識を育めるようにする。<br>○挿絵や資料と照らし合わせながら読むことで、書かれている内容を正しく読み解けるようにする。 | ○楽しく学び、考えることができるように、発問を工夫したり、ICTを活用したりしながら学習の場を設定する。<br>○ひらがな練習やノートの書き方指導を通して、書くことの楽しさや面白さを味わえるようにする。<br>○挿絵に吹き出しを付けて言語化したり、挿絵同士をつなぎ合わせながら文章の内容を想像することで、楽しみながら読めるようにする。 | ○進んで考えをもち、表現することができるように、問いをもつことを促したり、ICTを活用したりすることで、学習の場を工夫できるようにする。<br>○自分の考えを書いたり、書いたことを共有したりする活動を設定することで、書くことに対する抵抗感をなくし、主体的に取り組めるようにする。<br>○説明文では資料とつなぎ合わせながら内容を理解できるように促す。物語文では挿絵を使ってイメージを膨らませながら考えられるようにする。 | ○自ら考え、表現できるように、問いをもち、解決しようとする意識を育むとともに、ICTを活用しながら主体的に学習に取り組む場を設定する。<br>○相手意識や目的意識を明確にしながら書く活動を設定することで、明確な目的をもって表現活動に取り組めるようにする。<br>○文章と資料の対応関係を考え、書き手の意図を踏まえながら文章を読む活動を設定する。 |
| 社会科 | ○資料活用能力を向上させるために、調べたことを白地図などにまとめたり、新聞作りをしたりさせる。<br>○資料から読み取れることなどをグループで出し合い、全体で共有しながら学びを深められるようにする。 | （中学年からのスタートに向けて現時点で意識する指導の重点）<br>○自分と学校の人、自分と地域の人のような、人と関わりながら生活していることに気付かせる。 | ○写真やグラフなどの資料の読み取り方を教え、活用できる力を身に付けさせる。<br>○見学に関して、事前に見学の視点を示したり、その視点にそって見学したりする。また、分かったことを新聞などにまとめる。<br>○見学したことから自分の思いや考えをもたせ、働いている人の工夫や願いに気付かせる。 | ○資料活用能力の向上を目指す。複数の資料を関連させながら読み取りをすることに課題があるため、資料を精査し関連付けて読み解く力を高めたい。<br>○日頃から新聞や本などの資料を読む習慣を育て大切にしたい。<br>○調べ学習やまとめ学習において、ICT機器の活用を取り入れる。 |
| 算数科 | ○東京ベーシックドリルやICTを活用した学習ソフトをもとに、基礎学力の向上が目指せるように、環境整備につとめる。<br>○習熟別指導等、単元により適宜学習グループを考慮し指導する。授業で一番伝えたいことは何かを毎時間考えながら、発問を工夫し、思考力・表現力・判断力の育成を目指す。<br>○放課後算数教室を実施し、基礎学力の向上を図る。 | ○東京ベーシックドリルをもとに、基礎学力の向上が目指せるように、繰り返し指導を行う。（2年生）<br>○図形の領域では、めあてを明確にし、具体物を操作しながら、ものの形を捉え、形の特徴への感覚を養う。<br>○授業の中で、計算プリントを活用し、学習内容の定着を図る。<br>○ナビマを活用して、基礎学力の向上を図る。 | ○東京ベーシックドリル、ICTを活用した学習ソフトをもとに、基礎学力の向上が目指せるように、環境整備に努める。<br>○学びの必然性を引き出す発問を通して、思考力・判断力・表現力の醸成を図る。<br>○図形を構成する要素に着目できるよう、辺、面、角の数に視点を定め、それぞれの図形の性質についての感覚を養う。 | ○東京ベーシックドリル・ICTを活用した学習ソフトをもとに、基礎学力の向上が目指せるように、繰り返し指導を行う。<br>○指導を行う内容を教員間で共通理解を図り、発問を工夫しながら、思考力・表現力・判断力が伸長できる指導を行う。<br>○放課後算数教室では、面積が求められない既習学年に戻り、再度理解を深めることが必要である。 |
| 理科 | ○問題解決学習を定着させるとともに、考察する力を養うことを目指す。<br>○観察や実験を通して、自然に親しむ態度や知的好奇心、探究心を育てる。<br>○理科で学習したことを、日常生活や社会と関連付けさせる。 | （中学年からのスタートに向けて現時点で意識する指導の重点）<br>○年間を通して、一人一鉢植物を育てる体験活動をし、成長の変化を正しく捉えるように指導を工夫する。<br>○四季ならではの自然に親しむ活動を積極的に取り入れる。 | ○問題解決学習を定着させるために、課題をとらえ、根拠に基づいた予想を立て、結果から考察する力を養うことを目指す。<br>○授業の導入を工夫することで、自然に親しむ態度や知的好奇心、探究心を育てる。また、学習ソフトなどを活用し、学習内容の定着を図る。<br>○結果をもとに考察する力を身に付けるため、授業展開を工夫する。 | ○繰り返し問題解決学習を行うことにより、問題解決能力を身に付けさせ、考察力を養う。<br>○理科で学習したことを、知識で習得するだけでなく、日常生活や社会と関連付けさせ、生かすようにさせる。また、学習ソフトなどを活用し、学習内容の定着を図る。<br>○実験結果から読み取れることなどをグループで出し合い、全体で共有しながら学びを深められる指導方法を取り入れる。 |

2024年度　授業改善推進プラン（全体計画）

## 各教科における課題を改善するための指導の重点

| | 年度当初に設定した重点 | 低学年 | 中学年 | 高学年 |
|---|---|---|---|---|
| 生活科 | ○児童の思いや願いを大切にした指導計画を作成し、友達・異学年児童・身近な人々とのかかわりをもつような授業の計画を継続する。<br>○直接体験を重視した活動を設定するために、ボランティアコーディネーターと連携して、さらに校内・地域の教材を開発・活用する。 | ○学校探検や1，2年生顔合わせを通して、他者とのよりよい関わりについて考えていく。<br>○ボランティアコーディネーターを活用して、七夕の笹・木の実工作など地域の方からいただいたり、教えていただいたりして学習を進める。さつまいもや夏野菜などの育成、町探検などにも活用する。 | | |
| 音楽科 | ○身体表現の工夫やリズム遊び、リズム奏などを取り入れ、楽しみながら音楽に親しめるようにする。<br>○合唱や合奏を通して学級又は学年で心を合わせて一つのものを作り上げる喜びや達成感を多く経験できるよう工夫する。 | ○歌唱や器楽の教材で拍にのってリズム遊びを取り入れたり歌詞の内容に合わせて体で表現したり、のびのびと楽しみながら行っていく。<br>○鍵盤ハーモニカの運指、タンギング等を指導し、拍にのって演奏することができるようにする。打楽器や共用楽器に親しみ、鍵盤ハーモニカと合わせて簡単な合奏ができるようになることを目指す。 | ○歌唱や器楽の教材で旋律を手拍子やリズムで感じ取ることができるようにする。イラストで表現したり、単語一つ一つを確認することにより歌詞の内容の理解を深める。<br>○リコーダーや共用楽器の基本的な使い方を指導し、それぞれのパートの音色の響きを感じ取ることができるようにする。学級で合奏することにより、息を合わせて演奏し、成功体験を養う。 | ○歌唱や器楽の教材で旋律の音の上がり下がりを手を使って感じ取らせたり、リズムの違いに気付いたりすることにより、曲想の表現に生かす。<br>○低中学年の経験を生かして学級ごとやパートごとに音を合わせ、音の重ね方や音色の響き、全体のバランスを感じ取ることができるようにする。学年発表に向けて全員で作り上げる喜びを感じながら演奏できるよう指導の工夫をする。 |
| 図画工作科 | ○鑑賞カードに箇条書きで鑑賞のポイントを明記して、それをもとに作品をよく観察して、よいところを感じ取る行為が、学習活動の中で重要な意味をもっていることを意識させる。 | ○授業を教室のどのポイントから見るか、その目的によって工夫する。教室の前から見ることにより、発問に対する子供の反応や活動への意欲が見える。教室の後ろから見ることにより、全体の雰囲気や板書が見える。子供のそばにしゃがんで見ることにより、子供の目線や体の使い方などの細部が見える。子供が感じていることや、考えていることを知ることで指導に活かす。 | ○授業の記録のとり方を工夫することにより、子供の活動の変化や、それぞれの活動にどのような価値があったのかについて考える参考になる。座席表型は、子供の動線や、ある子供の活動が他の子供に影響を与えたときなど、活動の伝播を記録しやすく、空間全体を把握することで指導に活かす。 | ○授業の記録のとり方を工夫することにより、子供の活動の変化や、それぞれの活動にどのような価値があったのかについて考える参考にする。時系列型は、活動の変化の過程を詳細に追うことができる。表情や視線、つぶやき、動きなどの細部にも注目することにより、活動が急展開する場面などを把握することで指導に活かす。 |
| 家庭科 | ○「みつめる」「計画する」「活動する」「生活に生かす」という学習を繰り返すことにより、自分の生活を見つめ、より良く生活しようとする態度を育てる。<br>○学習ノートに、家庭でのインタビューや実践課題を設けることで、家庭生活への関心を高めていく。 | | | ○学校でできる学習活動において、「みつめる」段階で各家庭の実態を調査したり、「計画する」段階では学校で学習したことから調理の計画を立てたりして学校の学習と家庭での実践から、よりよく生活しようとする児童の育成に取り組む。<br>○学習内容を家庭で調査したり、長期休暇中に実践を促したりして関心を高める。 |
| 体育科 | ○スモールステップを意識して課題を与えていくことで、できた喜びや体を動かす楽しさを味わわせる。そのために、場の設定やシェアリングを工夫する。<br>○学習カードを活用し、めあてをもって運動に取り組むことはもちろん、「知る・見る・する」の3つの視点を与える。また、友達のいいところにも目を向けさせ、よい言葉・よい動きを集めて、共有する。 | ○各種の運動遊びの楽しさを味わうためにスモールステップで「できた」という体験活動を経験させる。そのための場の設定を工夫する。<br>○学習カードを通して、運動遊びの動きを知り、「できたこと」や「できないこと」を知ることで、意欲的に活動に取り組むことができるようにする。また、友達のよさに目を向けさせることで動きの幅を広げる。 | ○基本的な動きを知った後、その動きを組み合わせることで新たな動きに気付かせ、「できた」という体験をさせる。<br>○学習カードを通して、運動の動きを知り、「できたこと」や「できないこと」を知ることで、意欲的に活動に取り組むことができるようにする。また、ペア活動やグループ活動を通して友達と自分の動きを比較させる。 | ○単に「できる」だけではなく、友達との関りを通して技能の向上を図る学習させることで、「分かり、できる力」を育てる。<br>○必要な技能・チームの特徴を生かした作戦は何かということを試行錯誤しながら学習することで、意欲的に活動に取り組むことができるようにする。 |
| 外国語科 | ○高学年(70時間)は、教科書の学習内容の習得を中心に、コミュニカティブな活動やCLILを取り入れ、ALTを活用しながら児童を育てる。 | | | ○単に教科書のみの学習ではなく、英語と他教科など、教科横断的な視点から、英語を学習できるよう、単元計画を工夫する。<br>○ALTや専科教員とのスモールトークやデモンストレーションを積極的に取り入れ、児童が場面を想像しやすくなるよう、工夫する。<br>○発表では、目標表現に加えて、自分の気持ちも発表できるよう、日頃から授業に取り入れていく。 |

2024年度　授業改善推進プラン（全体計画）

## 各教科における課題を改善するための指導の重点

| | 年度当初に設定した重点 | 低学年 | 中学年 | 高学年 |
|---|---|---|---|---|
| 特別の教科　道徳 | ○学校の教育目標の重点項目でもある、「自ら考え、努力する子ども」を育成するために、各学年の重点内容のなかでも、特に低学年では、「善悪の判断」、中学年では、「思いやり、親切」、高学年では、「社会的役割の自覚と責任」を重視する。 | ○ねらいに迫るために、教材の特性に応じて、ペープサートやパワーポイントなどの教材提示の方法を工夫し、話の内容や道徳的課題がどの児童にも理解できるようにする。<br>○振り返りの発問を分かりやすいものに精選し、児童が課題を自分事として捉えたり、考えを深めたりすることができるようにする。 | ○ねらいに迫るために、教材の特性に応じて、ペープサートやパワーポイントなどの教材提示の方法を工夫し、話の内容や道徳的課題がどの児童にも理解できるようにする。<br>○振り返りの発問を分かりやすいものに精選したり、ICTを活用したりして、児童が課題を自分事として捉えたり、考えを深めたりすることができるようにする。 | ○ねらいに迫るために、教材の特性に応じて、ペープサートやパワーポイントなどの教材提示の方法を工夫し、話の内容や道徳的課題がどの児童にも理解できるようにする。<br>○振り返りの発問を分かりやすいものに精選したり、ICTを活用したりして、児童が課題を自分事として捉えたり、考えを深めたりすることができるようにする。 |
| 外国語活動・英語活動 | ○中学年(35時間)は、ゲーム的な活動や絵本の読み聞かせを通して、場面に応じた英語表現に慣れ親しませる。 | ○歌やチャンツを取り入れて、英語のリズムにのせて発話できる機会を増やし、英語に慣れ親しむことができるように工夫する。<br>○ALTや専科教員とのスモールトークやデモンストレーションを積極的に取り入れ、児童が場面を想像しやすくなるようにする。<br>○ピクチャーカードだけでなく、実物なども使用し、児童の理解を助けるための工夫をする。 | ○歌やチャンツを取り入れて、英語をリズムにのせて発話する機会を増やし、英語に慣れ親しむことができるよう工夫する。<br>○ALTや専科教員とのスモールトークやデモンストレーションを積極的に取り入れ、児童が場面を想像しやすくなるよう、視覚や聴覚に訴えるもの等も使用するなど工夫する。 | |
| 総合的な学習の時間 | ○直接体験を重視した活動を設定するために、ボランティアコーディネーターと連携して、さらに校内・地域の教材を開発・活用する。 | | ○体験や生活の中から設定した課題の解決に必要な資料を選択することができるようにするため、実際に関わったり調べたりする時間を設ける。<br>○自分の考えやインタビューしたことをまとめて伝えられるようにするために、クイズ・ポスター・新聞など、他教科等で学習した表現方法を活用させる。 | ○社会や自分の生活につながる課題を見出し、解決方法を検討させ、体験を取り入れた学習活動を行うなどの工夫をさせる。学習した内容や解決方法を生活に生かせるように、体験したことや学んだことを自分に関連付けて振り返らせる。<br>○調べたことや考えたことを伝える相手や内容に応じて分かりやすく表現できるように、今までに学習した表現方法を整理し活用させる。 |
| 特別活動 | ○学級活動を通して、様々な問題を自分のこととして深く考え、話し合い、よりよい学校生活を送ろうとする実践態度と自己指導力を育てる。<br>○異学年の交流を通して、集団の一員としての自覚を深め、進んで取り組み最後までやり抜く主体的な態度を育てる。<br>○学校行事においては、友達とともに活動し、助けたり励ましあったりしながら、お互いの努力を認め合うことで、豊かな心を育て、所属感・自己有用感を高める。 | ○周りの児童と仲良く助け合い身近な人に親切にし、みんなのために活動するなど自発的、自治的に学級生活を楽しくしようとする態度を育てる。<br>○異学年交流を通して、上学年への憧れや異学年で交流する楽しさを実感できるようにする。<br>○学校行事において、児童が、友達とともに活動することのよさや楽しさを実感し、人間関係を築いたり、自己肯定感をもったりすることができるよう、互いに認め合い、称賛し合う機会を多く設ける。 | ○係活動や当番活動を通して、学級生活を楽しくするとともに、互いに理解し合い、進んでみんなのために活動しようとする自発的、自治的な態度を育てる。<br>○異学年交流を通して、自分の役割を自覚しながら、上級生と協力して交流を楽しむことができるよう、振り返りを充実させる。<br>○学校行事において、児童が、友達とともに活動することのよさや楽しさを実感し、人間関係を築く力や社会性などを身に付けたり、自己肯定感をもったりすることができるよう、互いに認め合い、称賛し合う機会を多く設ける。 | ○委員会活動やクラブ活動を通して、学校生活全体に目を向け、互いに信頼・協力して主体的に責任を果たすとともに、自発的、自主的に豊かな学校生活を築こうとする態度を育てる。<br>○異学年交流を通して、自分の役割を自覚しながら責任を果たしたり、思いやりの心をもったりすることができるよう、振り返りを充実させる。<br>○学校行事において、児童が、学校全体を支える立場であることを自覚し、責任をもって活動できるよう、キャリアパスポートを活用して課題意識をもたせる。また、協働することのよさや楽しさを実感し、人間関係を築く力や社会性などを身に付けたり、自己肯定感を高めたりすることができるよう、互いに認め合い、称賛し合う機会を多く設ける。 |